

兵庫県の資源循環に関する 各種取組について

令和8年3月18日（水）

兵庫県環境部環境整備課

1 海洋プラスチックごみ対策について

日本国内から海洋に流出するプラスチックごみの推計

～環境省 令和6年度検討結果(日本の海洋プラスチックごみ流出量の推計)～

日本国内から流出するプラスチックごみの推計(概況)

- 日本国内から海洋に流出しているプラスチックごみの総量は、年間13,000～31,000トンと推計。
- マクロプラスチックの流出量は、年間1,900～7,500トンと推計。主な原因は陸域・河川・海岸での投げ捨てごみと想定。
- マイクロプラスチックの流出量は、年間11,000～24,000トンと推計。非意図的に添加されたマイクロプラスチックの流出が最も多い。

	分類	推計式	使用するデータ (現時点で入手可能な最新の値)	留意点・課題	暫定値 (t/年)
発生源・品目別に積み上げた流出量の推計	マクロプラスチック	小計①： 右記品目の合計	陸域・河川でのごみの投げ捨て等 海岸での投げ捨てごみ等 (注2)	左記発生源・品目の推計式・使用するデータ・留意点・課題について、プラスチックごみ流出量推計に係る基本情報一覧を参照すること。	1,900～ 7,500
	意図的添加 マイクロプラスチック	小計②： 右記品目の合計	レジンペレット・発泡ビーズ、農業資材(被覆肥料、肥料添加物、農業用マイクロカプセル剤、被覆種子)、洗剤類、パーソナルケア製品	左記品目の推計式・使用するデータ・留意点・課題について、プラスチックごみ流出量推計に係る基本情報一覧を参照すること。	460～ 3,400
	非意図的添加 マイクロプラスチック	小計③： 右記品目の合計	タイヤ摩耗粉じん、ブレーキ摩耗粉じん、道路標示材、繊維、建築塗料、船舶塗料、人工芝(パイル、充填材(意図的添加MicP))	左記品目の推計式・使用するデータ・留意点・課題について、プラスチックごみ流出量推計に係る基本情報一覧を参照すること。	11,000～ 20,000
	マイクロプラスチック (注1)	小計④：小計②と小計③の合計			11,000～ 24,000
	合計	合計(①+④)			13,000～ 31,000

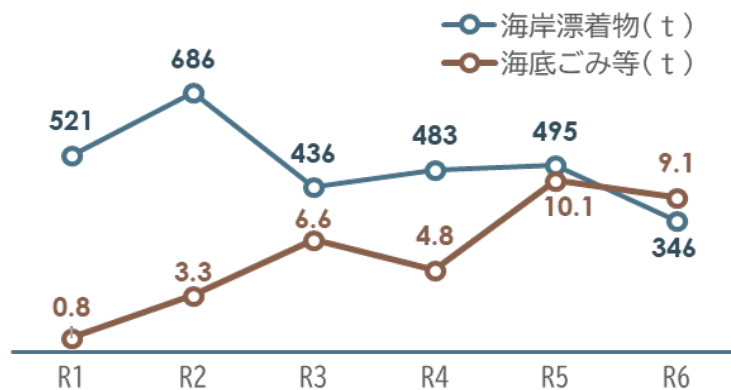
マクロプラスチックの回収量	小計(⑤) ：右記回収量の合計	河川、海岸、海域	左記回収量の推計式・使用するデータ・留意点・課題について、プラスチックごみ流出量推計に係る基本情報一覧を参照すること。	7,905～ 8,319
---------------	--------------------	----------	---	-----------------

陸域から海域にわたるプラスチックごみ・海ごみ対策

～兵庫県内で回収している海ごみ量～

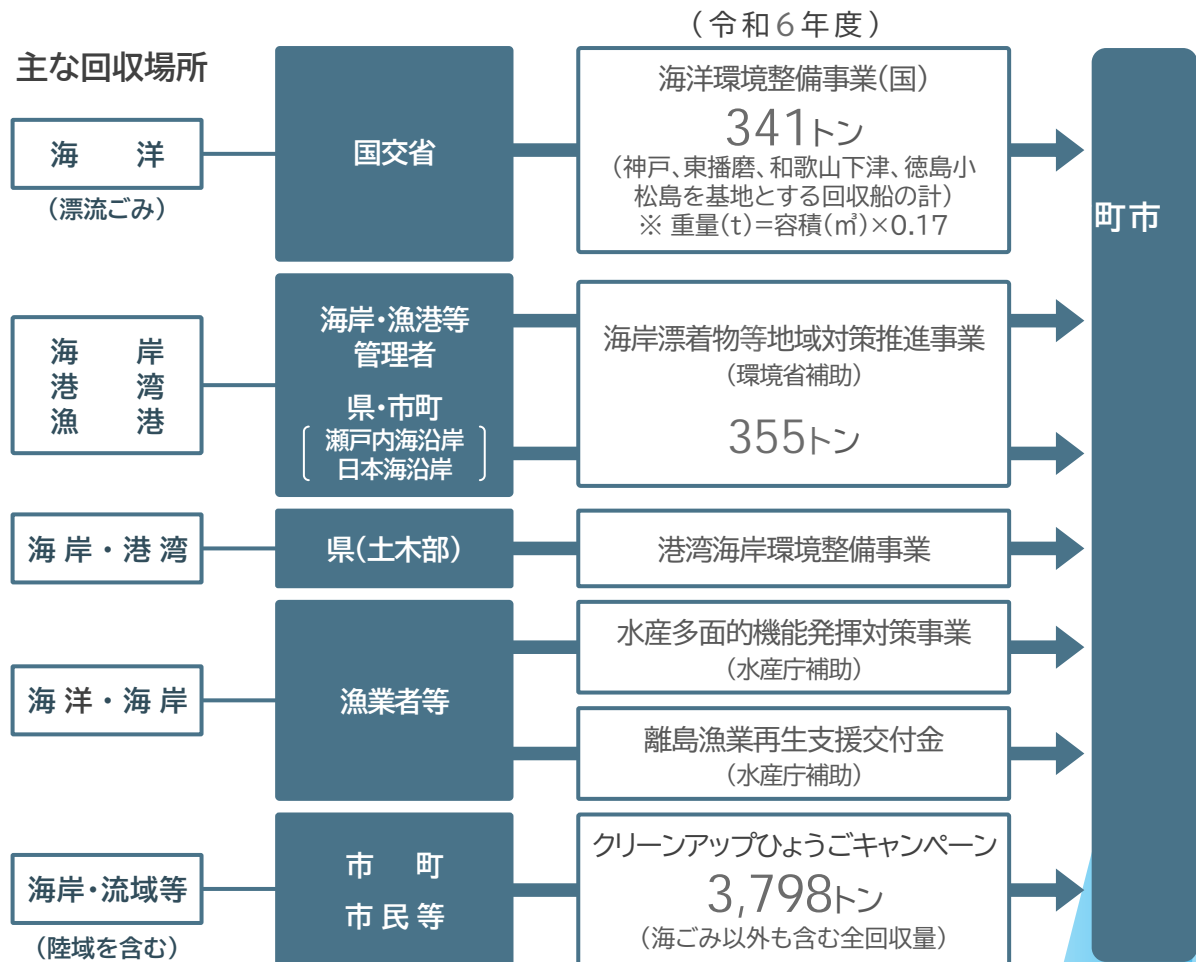
- 海岸の良好な景観及び環境の保全を図るため、海岸漂着物処理推進法に基づき、瀬戸内海沿岸及び日本海沿岸の海岸漂着物対策推進地域計画を策定(H23.3)。各海岸管理者等(県・市町等)が海岸に漂着・散乱している漂着ごみ等を処理するとともに、漂着ごみ等の発生を抑制するための普及啓発事業を実施。
- 海ごみ対策を充実させるため、同計画をR2.3に改定した。これにより、漂流・海底ごみも含めた海ごみの着実な回収・処理とプラスチックごみの排出抑制・リサイクルを推進。特に「身近なごみの管理が海ごみ対策につながる」ことを県民へ意識啓発するため、市町等と連携した啓発資材の配布やホームページ等の活用を促進。

海岸漂着物対策推進地域計画に基づく回収実績



漂着したごみや流木(田井ノ浜海岸・新温泉町)

主な回収場所



陸域から海域にわたるプラスチックごみ・海ごみ対策

～海ごみの削減に向けた普及啓発(瀬戸プラネット 令和7年度モデル的アクション)～



1 目的

- 阪神甲子園球場では、「KOSHIEN eco Challenge」の一環で、球場施設内で使用したアルコール飲料用プラスチックカップ・ペットボトルを分別回収、リサイクルの見える化を実施。
- 球場利用者にリサイクルについて周知し、取組強化につなげるとともに、武庫川女子大学と連携し、海洋ごみ発生抑制に関する普及啓発を実施。
- さらに、学生による県主催イベント等での発表を通じ、特定のイベントに留まらない取組の拡大を促進する。

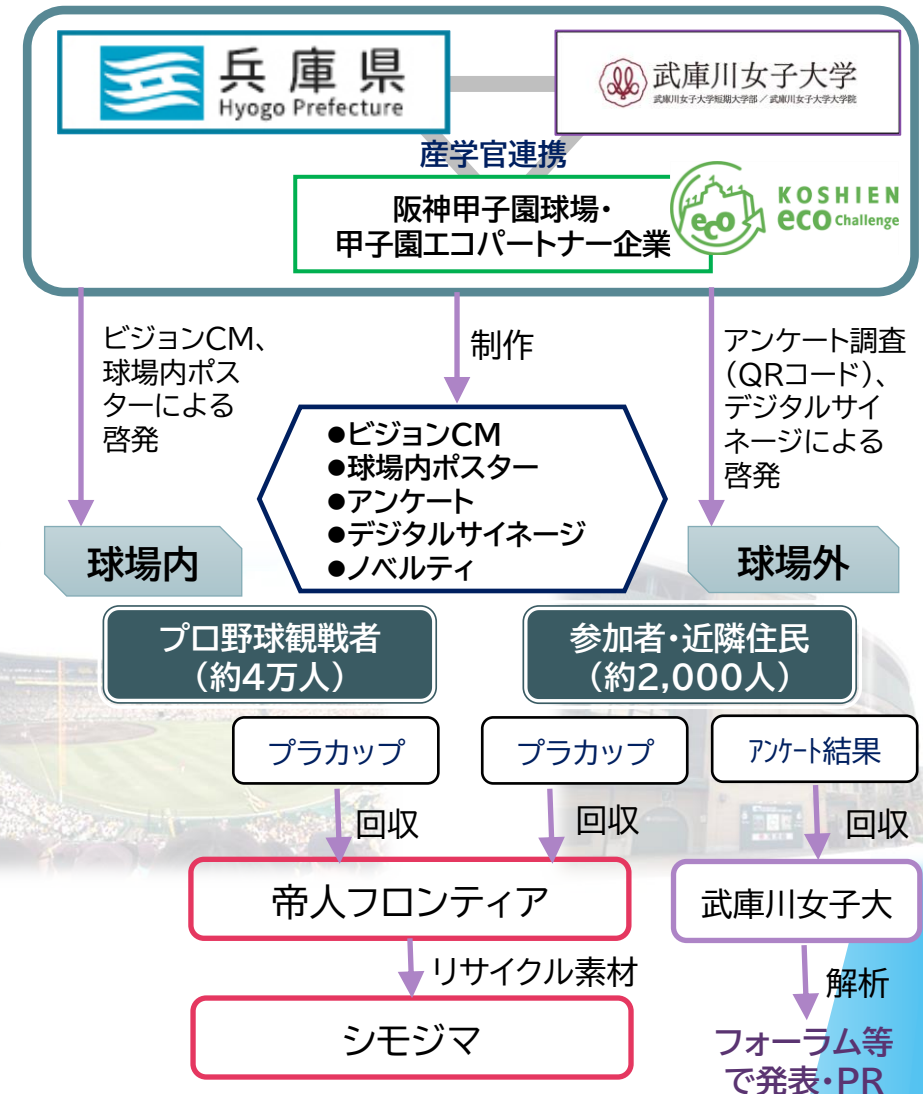
2 対象者

阪神甲子園球場への来場者
 プロ野球観戦者 約4万人
 ビアフェスタ参加者(周辺住民含む) 約2,000人

3 モデル事業実施日

- 日時:令和7年8月29日(金)～31日(日)14:00～18:00
 ～**阪神・巨人戦 ビアフェスタを活用**～
- 場所:阪神甲子園球場ミズノスクエア

事業イメージ



陸域から海域にわたるプラスチックごみ・海ごみ対策

～海ごみの削減に向けた普及啓発(瀬戸プラネット 令和7年度モデル的アクション)～



4 球場内外での啓発

- 学生が2種類のポスターを制作し、球場内コンコース15箇所に設置。
- ビジョンCMはペットボトル分別回収をわかりやすく呼びかける内容とし、撮影から編集まで学生が制作。(金曜は1回、土日は2回放送)
- 球場外ミズノスクエアではエコステーションを運営。(3日間を通じて延べ約1,900人に啓発)
- 参加者に対して学生が意識調査アンケート(対面・QRコードの併用)を実施。



大型ビジョンによるCM



- 右上 対面でのアンケートの様子
 左上 エコステーションでのカップ回収の様子
 左下 分別回収したプラスチックごみ



内野スタンドコンコース内のポスターの状況

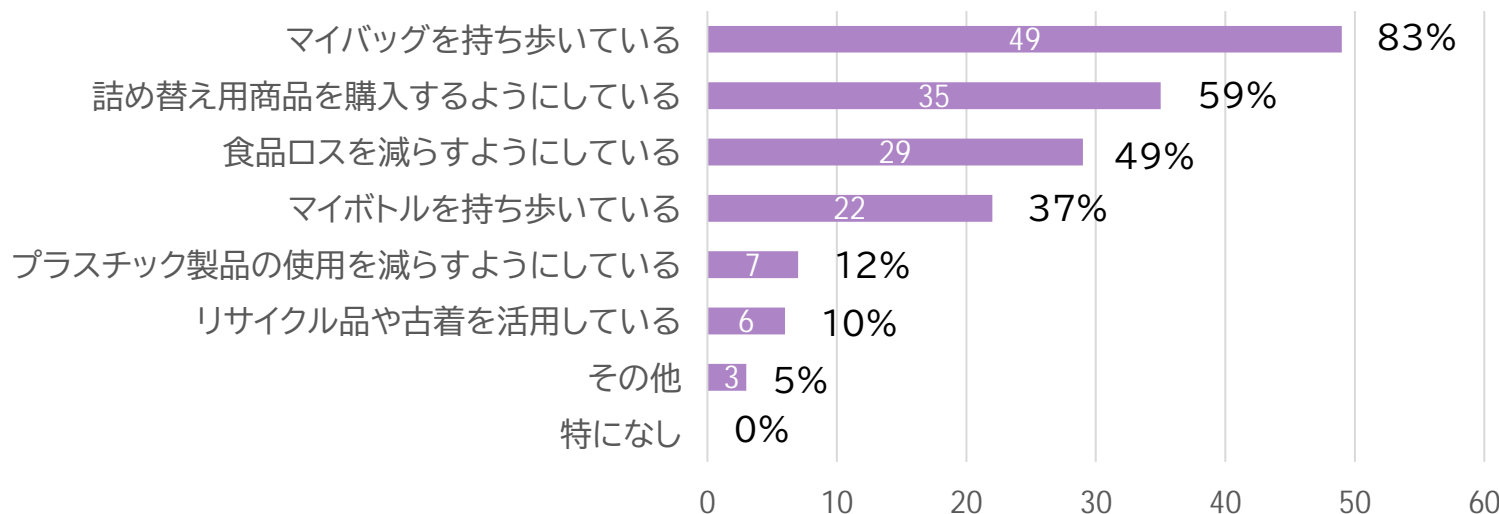
陸域から海域にわたるプラスチックごみ・海ごみ対策

～海ごみの削減に向けた普及啓発(瀬戸プラネット 令和7年度モデル的アクション)～



5 アンケート結果【抜粋】

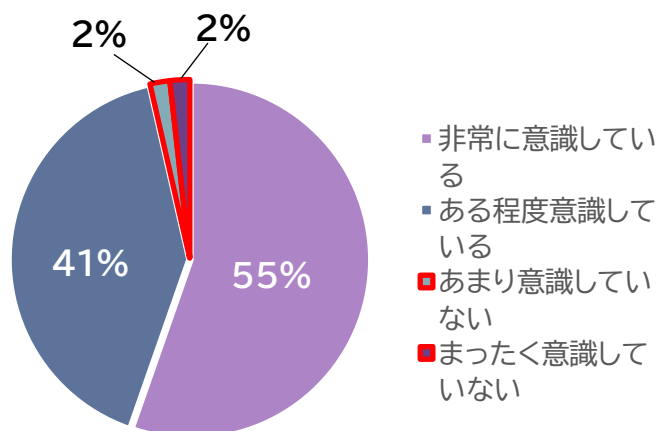
(1)環境にやさしい取組みとして実践していることは？(複数回答可)



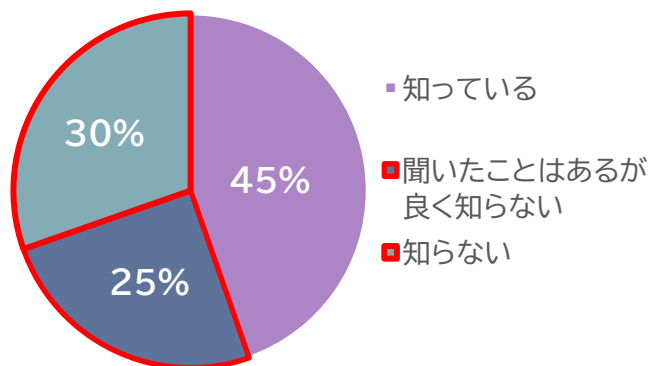
分別収集など意識はしていても、どのようにリサイクルされているのかは、あまり知られていないのでは？



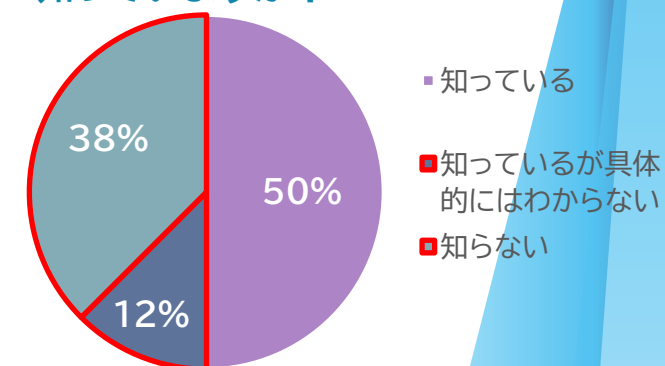
(2)普段、自宅でのごみ出しの際、分別についてどの程度意識していますか？



(3)瀬戸内海に流れ着いたごみの約80%が陸地から流出していることを知っていますか？



(4)甲子園球場内で回収されたプラカップがビアカップホルダーやラバーフェンスなどにリサイクルされていることを知っていますか？



陸域から海域にわたるプラスチックごみ・海ごみ対策

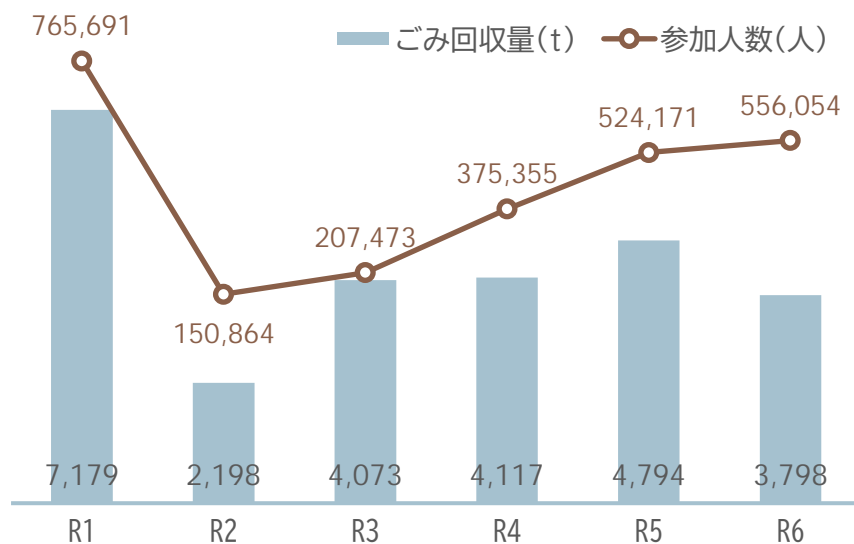
～クリーンアップひょうごキャンペーンの推進～

- 平成8年度から市町等と連携して推進協議会を設置し、県内全域で環境美化の統一キャンペーン「クリーンアップひょうごキャンペーン」を展開。
- キャンペーン期間(毎年5月30日～9月30日)は、県内各地で団体、地域住民、行政(県・市町)、小中学校、企業等が連携して、清掃等環境美化活動を実施。併せてポスターの配布や街頭でのキャンペーンを実施。
- 令和7年度は30年目を記念して9月20日に「Grateful Day」を開催。メリケンパーク及び諸寄海岸(新温泉町)の2会場で約540人の参加を得て、プロギングを含めた清掃活動、イベントブースによるリサイクル等の啓発、神戸ファッション専門学校等と連携したサステナブルファッションショー等を実施。
- Grateful Dayの取組について、WORLD CLEANUP DAY JAPANからアワード(モビライズ賞)を受賞。



クリーンアップひょうごキャンペーンGrateful Day(神戸市)

クリーンアップひょうごキャンペーン回収実績



WORLD CLEANUP DAY JAPAN 2025 アワード

陸域から海域にわたるプラスチックごみ・海ごみ対策

～海ごみの削減に向けた人材育成～

ひょうご海ごみリーダー養成講座

- 県内中高生を対象とした海洋ごみについて「自ら考え」「行動する」リーダーを養成する講座を(公財)ひょうご環境創造協会と連携して実施。
- 令和7年度は高校生20名(6校)の参加を得て、河川清掃活動を実施し、海ごみの課題解決方法について検討し、アクション宣言として発表。

実施回	場所	内容
第1回	加古川大堰	河川敷での清掃活動、海洋プラごみに関する講義、グループディスカッション
第2回	宝塚商工会議所	映画「マイクロプラスチック・ストーリー」の上演、映画監督との座談会
第3回	オンライン	講座の振り返り、アクション宣言の検討・発表



海ごみリーダー養成講座

大学・専門学校等との連携

- 武庫川女子大学社会情報学部(井上ゼミ)と連携し、阪神甲子園球場でのプラスチックカップ回収啓発イベントを企画・運営。クリーンアップひょうごキャンペーン「Grateful Day」など県主催イベントで成果発表。(再掲)
- 神戸ファッション専門学校と連携し、クリーンアップひょうごキャンペーン「Grateful Day」において、衣服のリユースをテーマとしたサステナブルファッションショーを開催。



大学生との意見交換(武庫川女子大学)

2 プラスチックの資源循環の推進

兵庫県資源循環推進計画の推進

- 「ひょうご循環社会ビジョン」（H13.5策定）と概ね5年ごとに更新してきた「廃棄物処理計画」（H30.8改定）を統合し、R6.1に「兵庫県資源循環推進計画」を策定。
- 2050年頃の持続可能な社会の姿として「資源循環・脱炭素・自然共生社会」を目指し、従来の廃棄物処理にとどまらず、プラスチック資源循環や廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラルを促進する観点を追加。製造・流通・消費等の各段階で資源循環を推進。

暮らしに根ざした資源循環の重点取組

プラスチック資源循環の推進

基本的な考え方

- 3R+リニューアブルの徹底、適正処理の確保
- マテリアル・ケミカルリサイクルの優先
- 焼却時の発電・熱利用の徹底
- ライフサイクル全体での資源循環・環境負荷軽減
- 自主的な取組促進による行動変容

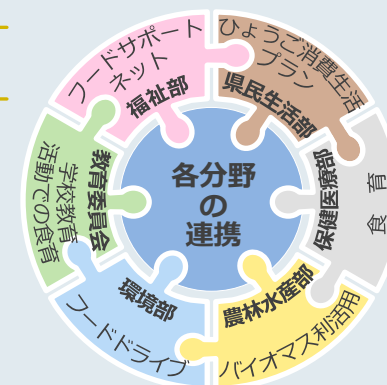
プラスチック対策に係る指標【2030年度】（2020年度比）

区分	指標	進展の目安
物棄廃一般	排出量を 8%削減	・市町が回収する前の排出削減（リデュース）
	焼却量を 4割削減	・市町の分別収集による再生利用（リサイクル） ・2030年までに容器包装の6割リユース・リサイクル ・焼却施設におけるCO ₂ 排出量の削減
物棄廃業産	排出量を 8%削減	・排出事業者の排出削減（リデュース）
	焼却量を 3割削減	・再生利用（リサイクル） ・焼却施設におけるCO ₂ 排出量の削減

食品ロス削減対策の推進

基本的な考え方

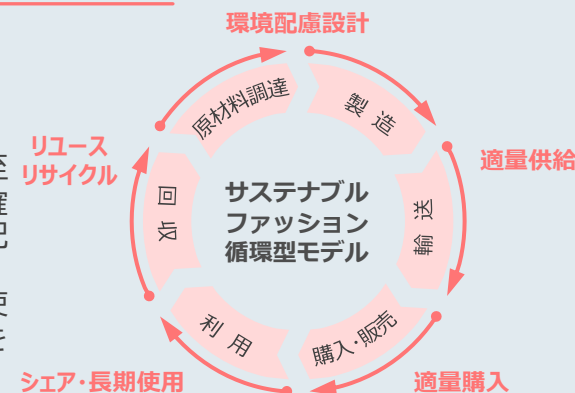
- 食品ロスの削減
- 食品廃棄物の再生利用促進
（兵庫県食品ロス削減推進計画）



サステナブルファッションの展開

基本的な考え方

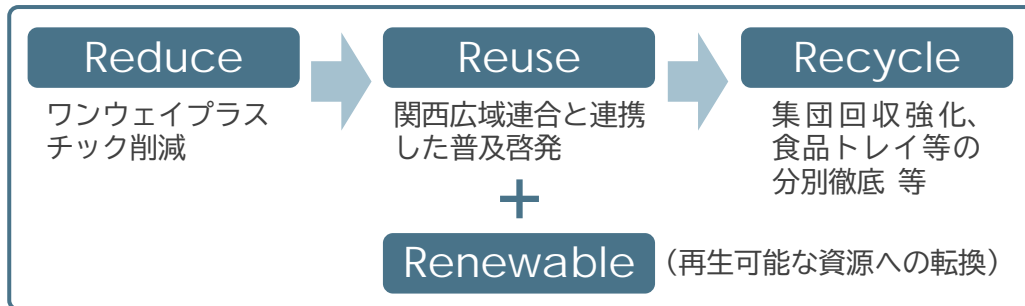
- 衣服の「適量発注・適量生産・適量購入・循環利用」へ転換
- 衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスでの持続可能性を確保し、地球環境や人・社会に配慮した取組を促進
- 衣服を製造・販売する企業と使用する生活者双方の行動変容を促進



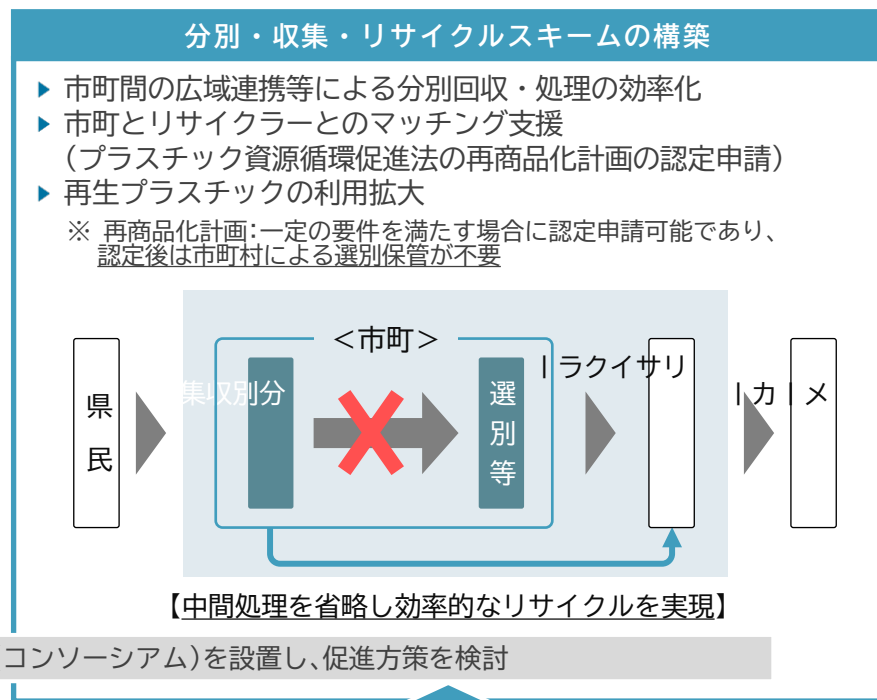
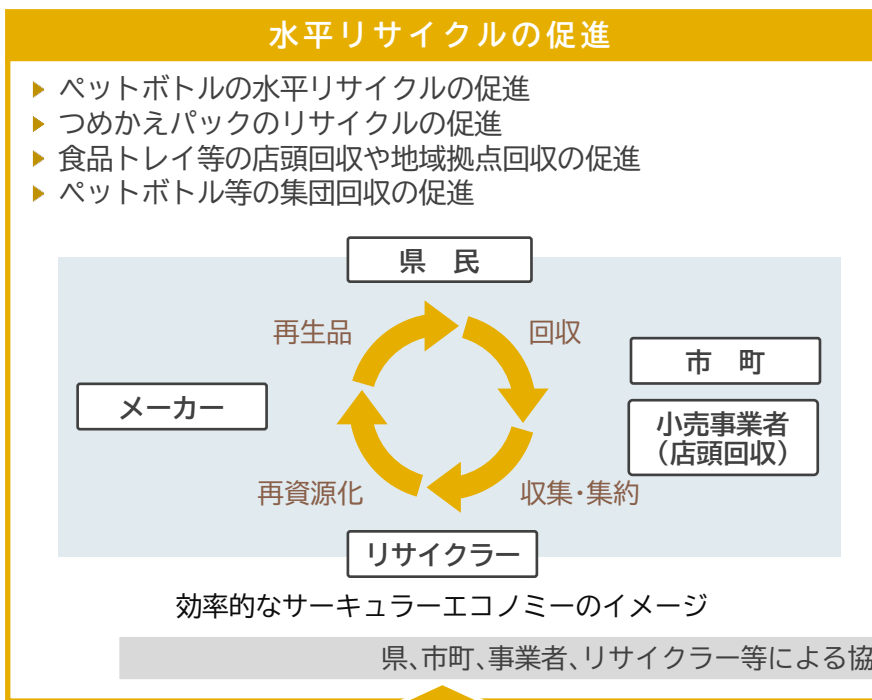
陸域から海域にわたるプラスチックごみ・海ごみ対策

～プラスチックごみ対策の推進～

- プラスチックごみ削減に向け、3Rの取組を徹底することを基本とし、令和2年度から「プラスチックごみゼロアクション」をスタート。さらに令和3年6月に成立した「プラスチック資源循環促進法」の施行(R4.4.1)を踏まえ、再生可能資源への代替(リニューアブル)の観点も加えて、資源循環の取組を強化。



兵庫県のプラスチック資源循環の取組の方向性



行動変容の促進

- ① 効果的な学習プログラムの開発と活用
- ② 取組内容や成果の見える化、情報発信
- ③ 県民運動(エシカル消費等)の展開支援

陸域から海域にわたるプラスチックごみ・海ごみ対策

～ひょうごプラスチック資源循環コンソーシアムの展開～

- 令和4年度から、プラスチック資源循環の促進方策の具現化に取り組むため、観光やスポーツ等の異分野業種、市町、リサイクラー等と連携した「ひょうごプラスチック資源循環コンソーシアム」により、官民連携でプラスチックの資源循環を促進。

コンソーシアムで展開する4つのテーマ

プラスチックの使用削減などの促進

- ▶ **[Reduce]** 城崎温泉旅館でのプラスチック使用削減・生分解性プラスチックの利用促進

アメニティグッズのプラスチック使用削減・生分解性プラスチックの利用促進



- ▶ **[Reuse-Recycle]** (株)ワールドと連携した衣服のリユースを促進

「エコロモキャンペーン」を豊岡市で実施。回収した衣服を再販売し、収益を市の子ども関連施設等に還元



- ▶ **[Renewable]** (株)カネカや(株)ダイセルなどの生分解性プラスチックの利用促進

海洋プラスチックごみ対策として生分解性プラスチックへの置き換えを促進



水平リサイクル等の促進

- ▶ 食品トレー・透明パック容器の店頭回収促進

小野市、市内スーパー、(株)エフピコと連携し、トレーの水平リサイクルの取組を普及啓発



- ▶ ひょうごPETボトルサーキュラーネットワークの推進

飲料メーカー、リサイクラー、県が一丸となり、市町、県民の協力のもと、PETボトルの水平リサイクルをさらに推進



製品プラスチックの効率的な資源循環

- ▶ 分別収集リサイクルスキームの構築

小野市、加西市、加東市と県が共同で、各市ごみ中のプラスチック資源潜在量を把握、リサイクルケース別のコスト・CO₂削減効果を検証



行動変容の促進

- ▶ ごみ拾いアプリ(ピリカ)の活用

ごみ問題を自分事と捉えるきっかけとして、ごみ拾い時等に「兵庫県版ピリカ」の活用を促進



- ▶ J T(日本たばこ産業(株))との連携

「兵庫県版ピリカ」を活用した清掃活動を県内各地域で展開



- ▶ 食品容器環境美化協会との連携

民間団体と連携し、美化活動等の環境教育を実践している学校を表彰



- ▶ 海洋プラごみ問題啓発イベントの開催

(公財)ひょうご環境創造協会と連携し、ひょうご里山・里海国際フォーラムで海ごみ企画展を開催



プラスチックの水平リサイクル等の促進

～ひょうごPETボトルサーキュラーネットワーク～

- 令和5年10月に遠東石塚グリーンペット(株)姫路工場が稼働を開始。
- 県内市町で回収されるPETボトルの9割以上(重量ベース)が県内でリサイクルされ、県内での資源循環の輪が確立。
- 令和6年12月、飲料メーカー、リサイクラー、県が一丸となって「ひょうごPETボトルサーキュラーネットワーク」を立ち上げ、県民・市町の協力のもと、県内で排出されるPETボトルの水平リサイクルをさらに推進。

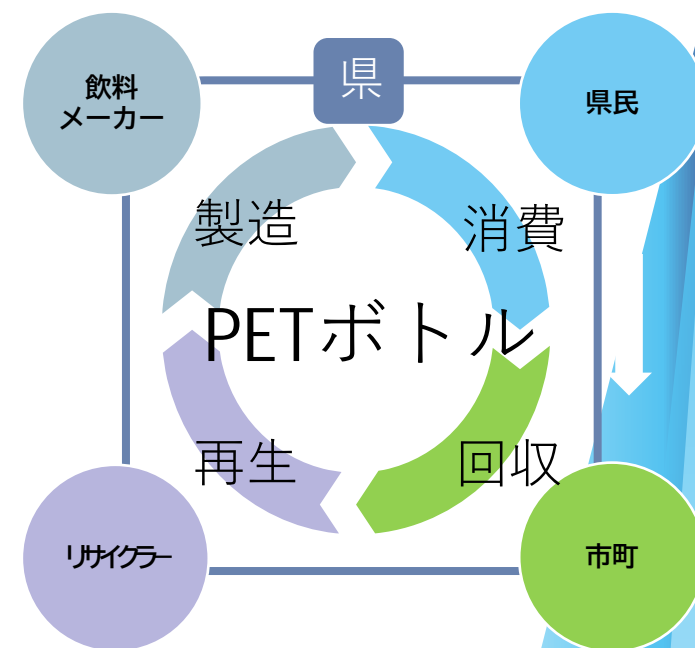
ひょうごPETボトルサーキュラーネットワークの概要

区分	構成団体	役割
飲料メーカー	アサヒ飲料(株) (株)伊藤園 キリンビバレッジ(株) コカ・コーラボトラーズジャパン(株) サントリーグループ	「ボトルtoボトル」に関する取組の推進
リサイクラー	遠東石塚グリーンペット(株)	再生PETボトルに必要な原料供給の拡大
行政	兵庫県	各主体の取組の情報発信、PETボトル回収量増加のための啓発・取組の推進



ネットワーク立ち上げ式 (R6. 12. 20)

ネットワークのイメージ



プラスチックの水平リサイクル等の促進

～環境学習を活用した食品トレーリサイクルの普及啓発～

- 令和6年度に環境省のローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン（LBOV）推進事業実施自治体に採択され、小学生の環境学習を活用した食品トレーの店頭回収促進、海洋ごみ発生抑制の普及啓発事業を実施。
- 小野市及び(株)エフピコと連携し、小野市内の小学校2校で、海洋ごみの現状と対策に関する授業と、得られた知識等を踏まえたリサイクル食品トレーのデザインを考案するセミナーを実施。
- 考案したデザインはスーパーで提供される食品トレーに掲載、さらに回収したトレーは店頭回収を通じた水平リサイクルを実施。
- 本事業により海洋ごみの発生抑制に向けた普及啓発の実施とともに、地域内での資源循環の実現や他自治体への横展開を検討。



事業の流れ

①小学校での環境学習



②デザイン原案作成



③トレー作成・スーパーへの提供



④店頭回収



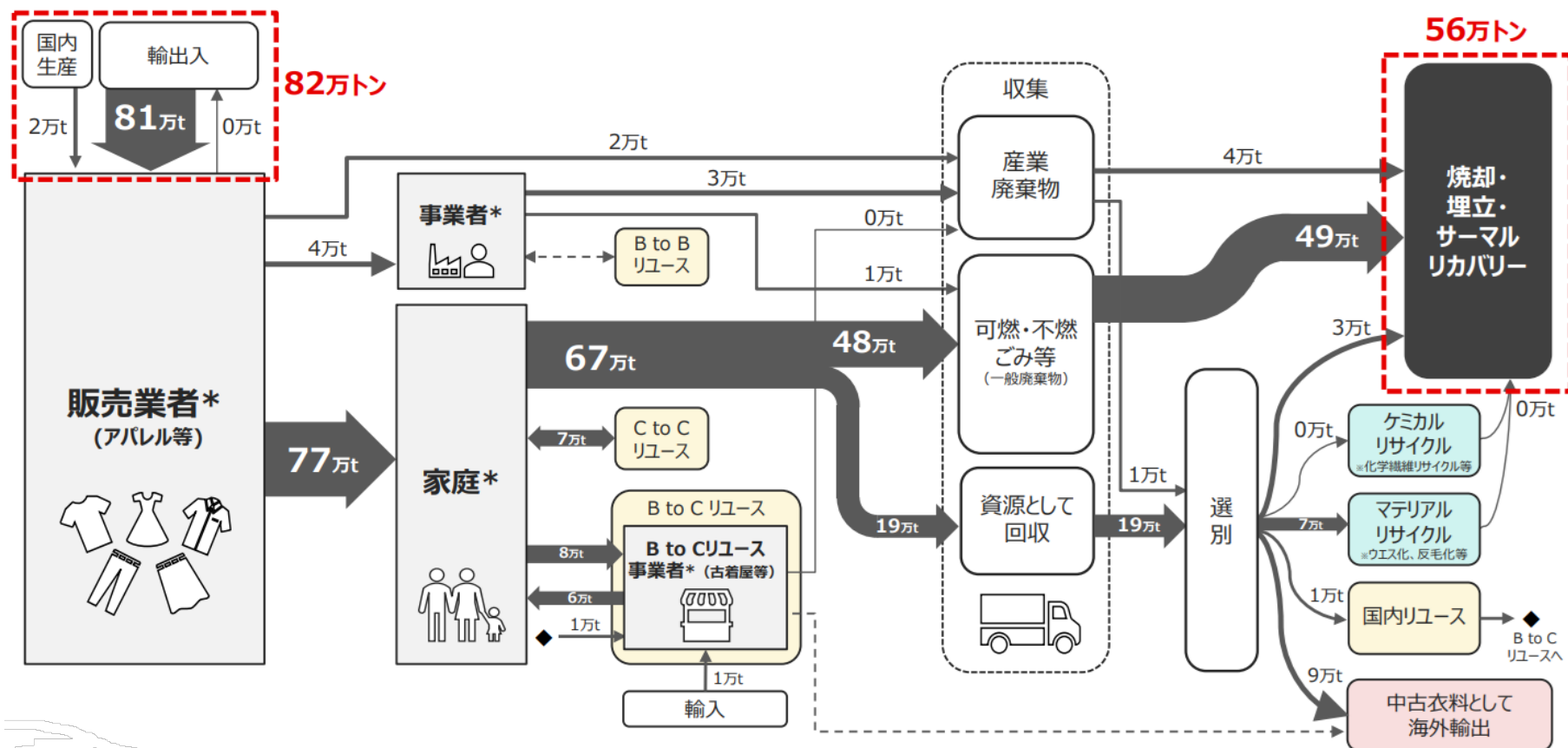
3 サステナブルファッションの推進

サステナブルファッションの推進

～衣服のマテリアルフロー～

- 令和6年度に環境省が実施した「循環型ファッションの推進方策に関する調査」では、衣類の国内新規供給量は計82万トン。
- 家庭や事業者において使用されたのち、廃棄されるのは計71万トン（87%）であり、56万トン（68%）は未利用のまま廃棄物処理されている。
- 家庭から手放された衣服のうち、資源として回収されるのは19万トン（23%）であるが、ウエス等にマテリアルリサイクルされるのは7万トン（9%）、ケミカルリサイクルされるのはごく僅かであり、リサイクルはほとんど進んでいない状況。

国内の衣服のマテリアルフロー



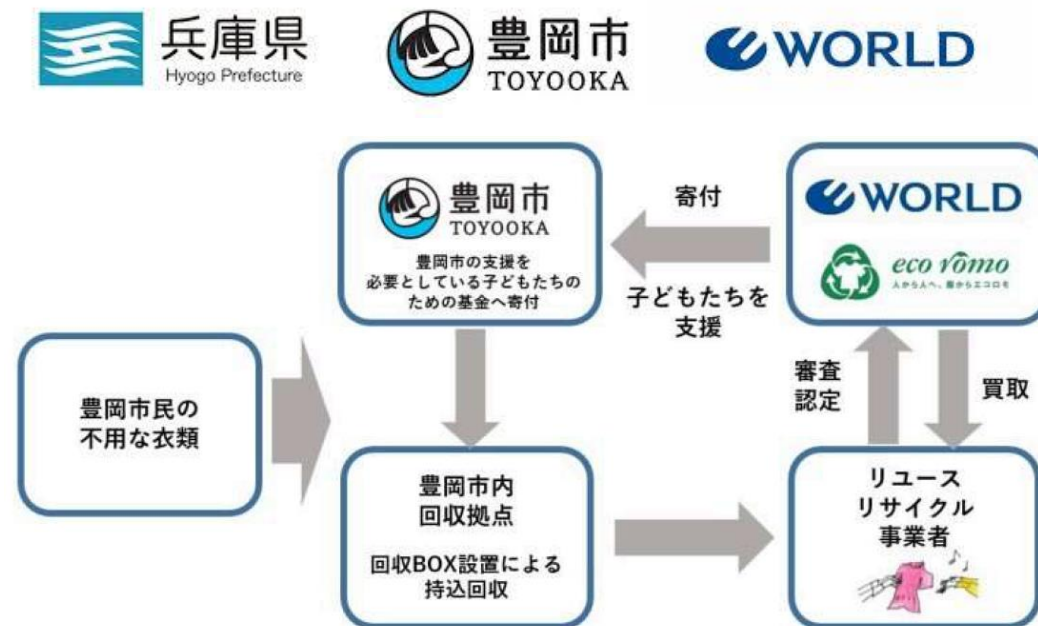
サステナブルファッションの推進

～事業者と連携した衣類のリユースモデル～



エコロモキャンペーン in 豊岡

- (株)ワールドは、2009年秋から環境貢献活動の一環として、不要な衣料品を引き取り、リサイクルパートナーと連携してリサイクル・リユースを行う「ワールドエコロモキャンペーン」を展開。
- 令和7年12月1日から、豊岡市、(株)ワールド、兵庫県が連携し、「エコロモキャンペーン in 豊岡」を実施。
- キャンペーンで回収・再販売して得られた収益金は、豊岡市の支援を必要としている子どもたちのための基金へ寄付。
- 県は、この取組に合わせ、参加者にアンケートを実施し、衣服の効率的・効果的な回収・リユース・リサイクルシステムを構築し、県内市町への普及展開を目指す。



エコロモキャンペーン in 豊岡のスキーム

「エコロモキャンペーン in 豊岡」の事業概要

実施期間	令和7年12月1日(月)～令和8年3月2日(月)
回収BOX 設置場所	<ul style="list-style-type: none"> 豊岡市役所 出石振興局 城崎振興局 但東振興局 竹野振興局 Aity(豊岡市子ども支援センター) 日高振興局 コープデイズ豊岡
回収可能 アイテム	<ul style="list-style-type: none"> 衣料品(メンズ、レディース、キッズ) バッグ 帽子 マフラー ベルト ネクタイ
実施結果 (速報)	総回収量 約11,000点(重量:約3t)



衣類回収BOX(豊岡市城崎振興局)



衣類回収BOXの様子(コープデイズ豊岡)

サステナブルファッションの推進

～繊維to繊維の水平リサイクル～

スポーツウェア・リボン・プロジェクト

- 県民が参加可能な衣服の水平リサイクルの取組として「スポーツウェア・リボン・プロジェクト」を発足。
- イベント等でスポーツウェアを回収し、衣類への水平リサイクルを実施。

実施日	イベント内容
R6. 11. 30 ～12. 1	大阪マーヴェラス (SV. リーグ) ホームゲーム ※11/7に選手の過去シーズンユニフォームも提供
R7. 7. 12	ラグビー男子日本代表対ウェールズ代表戦
R7. 9. 20	クリーンアップひょうごキャンペーン「Grateful Day」



スポーツウェア回収イベント（神戸市）

ワークウェア・リボン・プロジェクト

- 企業ユニフォーム（作業服等）の水平リサイクルプラットフォームとして令和7年8月に「ワークウェア・リボン・プロジェクト」を発足。
- 令和7年9月4日に「国際フロンティア産業メッセ2025」において発足式及びセミナーを開催。

ワークウェア・リボン・プロジェクト参加企業（R7. 8. 18発足時）

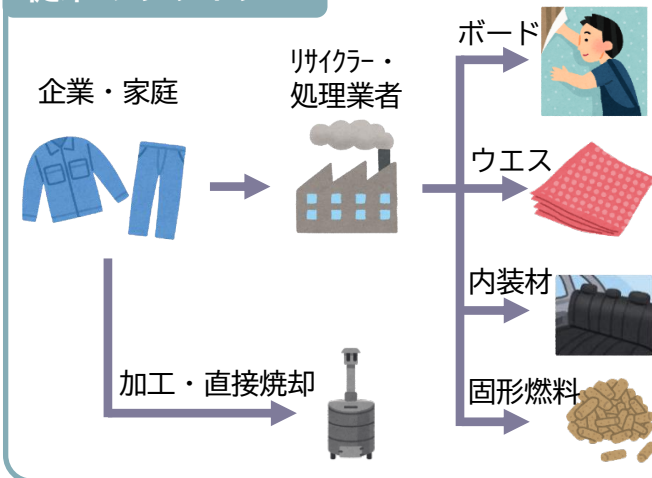
区分	企業名
ユーザー企業	<ul style="list-style-type: none"> ● 川崎重工業(株) ● クミアイ化学工業(株) ● シスメックス(株) ● シスメックスビジネスサポート(株) ● 松谷化学工業(株)
メーカー・サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)カマタニ ● (株)トモヤ ● ワタキューセイモア(株)
リサイクラー	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)JEPLAN



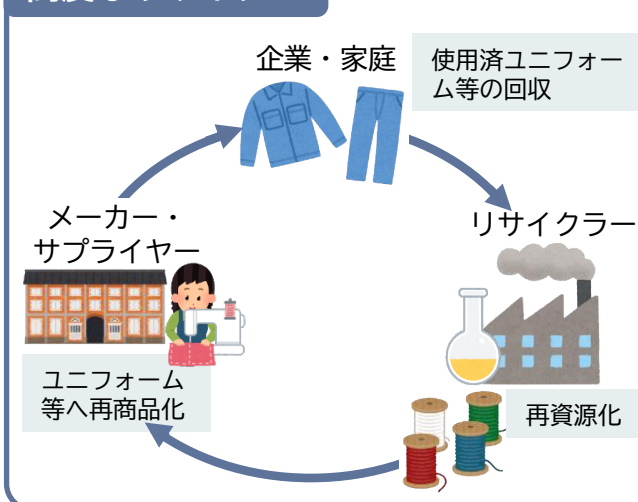
ワークウェア・リボン・プロジェクト発足式

ユニフォーム処理の転換のイメージ

従来のリサイクル



高度なリサイクル



4 持続可能な航空燃料(SAF)の供給に向けて

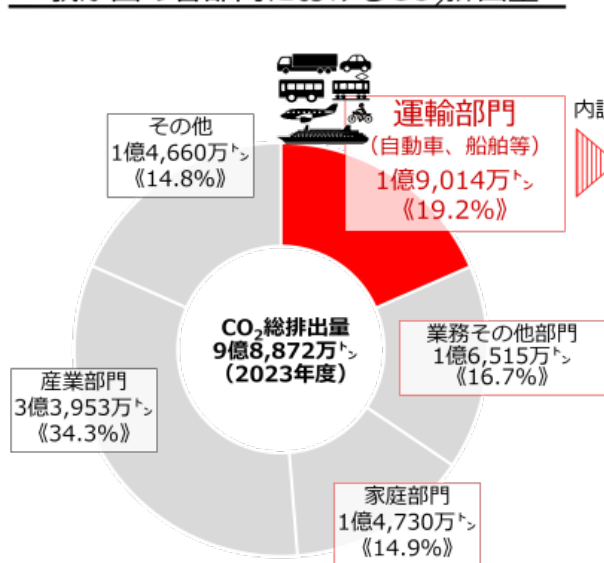
持続可能な航空燃料（SAF）の供給に向けた取組

～航空分野におけるCO₂排出量～

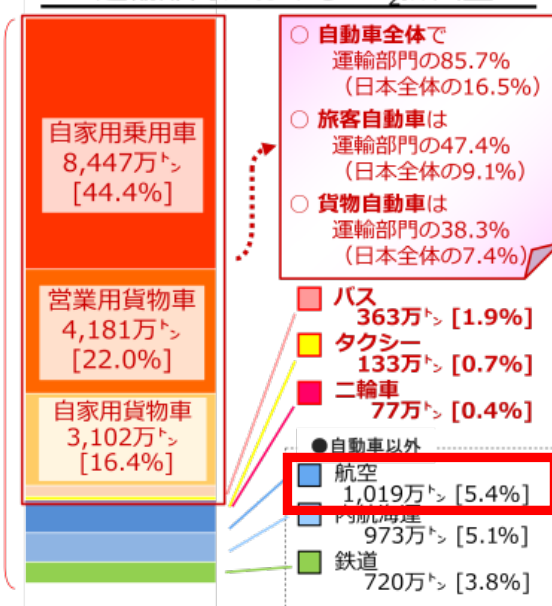
- 2050年カーボンニュートラルに向けて、各部門でのCO₂の削減が必要。
- 運輸部門は、国内のCO₂排出量の約20%を占めており、このうち最も排出量が多いのが自動車（86%）、次いで航空（5%）。
- 航空機は、他の輸送手段と異なり、電化が難しいことから、燃料のCO₂削減が必須。
- SAF（Sustainable Aviation Fuel：持続可能な航空燃料）は、廃食用油を含め様々な原料から製造され、石油等から製造されたジェット燃料と比べ、60～80%のCO₂削減効果があるとされている。
- 国内では、コスモ石油(株)、日揮ホールディングス(株)、(株)レボインターナショナルの3社が設立した合同会社SAFFAIRE SKY ENERGYが、2025年3月に大阪府堺市に廃食用油を原料とした国産SAFの製造、供給事業を行うための製造設備を設置。

運輸部門における二酸化炭素排出量

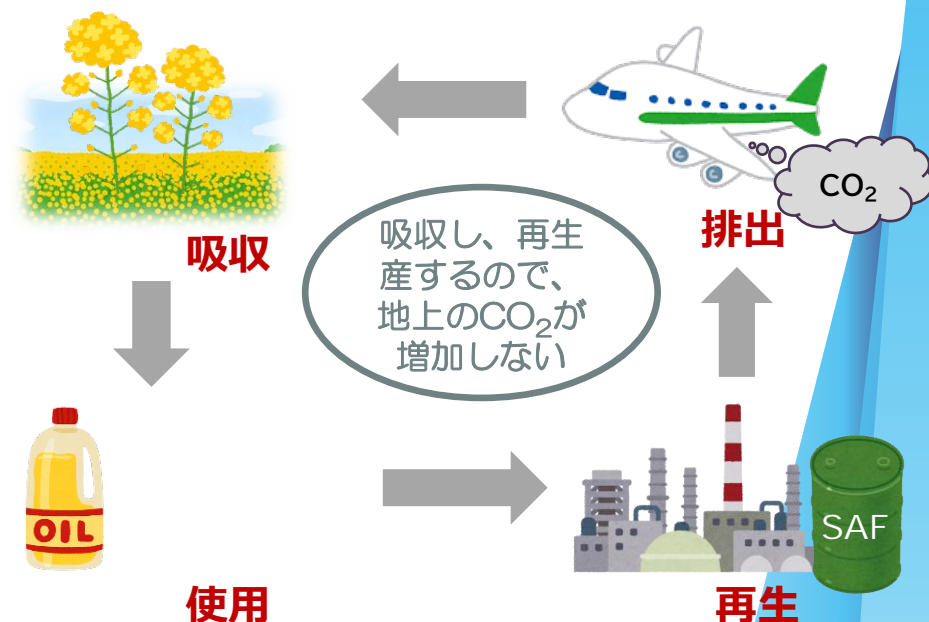
我が国の各部門におけるCO₂排出量



運輸部門におけるCO₂排出量



※ 端数処理の関係上、合計の数値が一致しない場合がある。

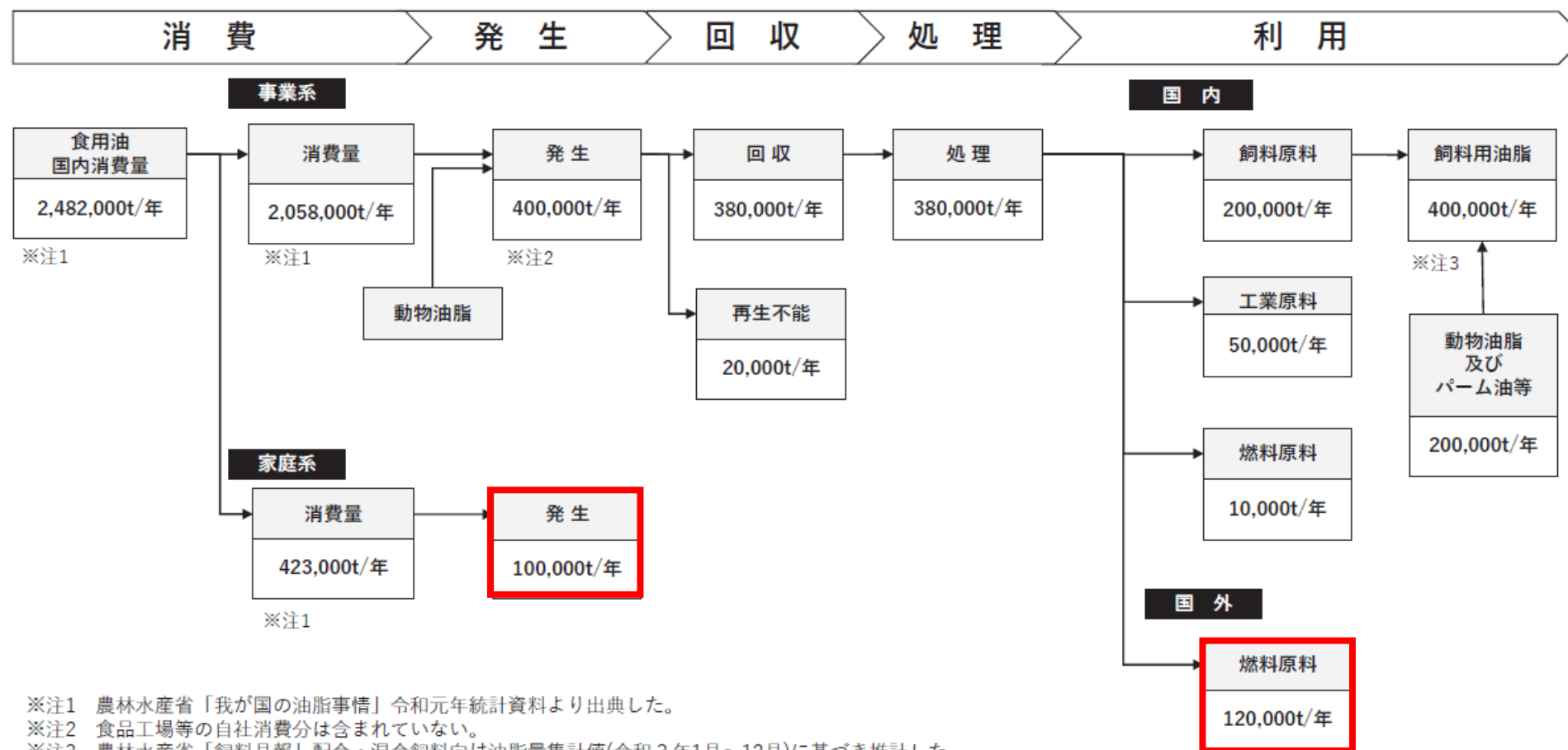


出典：国土交通省Webサイト「運輸部門における二酸化炭素排出量」

未利用の廃食用油の活用ポテンシャル

～国内の廃食用油の再資源化フロー～

- 事業系廃食用油は、年間40万トンの発生量に対し、回収量は38万トン（95%）であり、そのほぼ全量が再資源化。海外に輸出している量を国産SAFに活用できないかが課題。
- 家庭系廃食用油は、年間10万トンに発生量について、その再資源化量は明らかになっていない。
- 既に再資源化が行われているスキームを維持しつつ、それ以外の廃食用油の活用を進めるには、家庭系廃食用油の回収促進が必要。



※注1 農林水産省「我が国の油脂事情」令和元年統計資料より出典した。

※注2 食品工場等の自社消費分は含まれていない。

※注3 農林水産省「飼料月報」配合・混合飼料向け油脂量集計値(令和3年1月～12月)に基づき推計した。

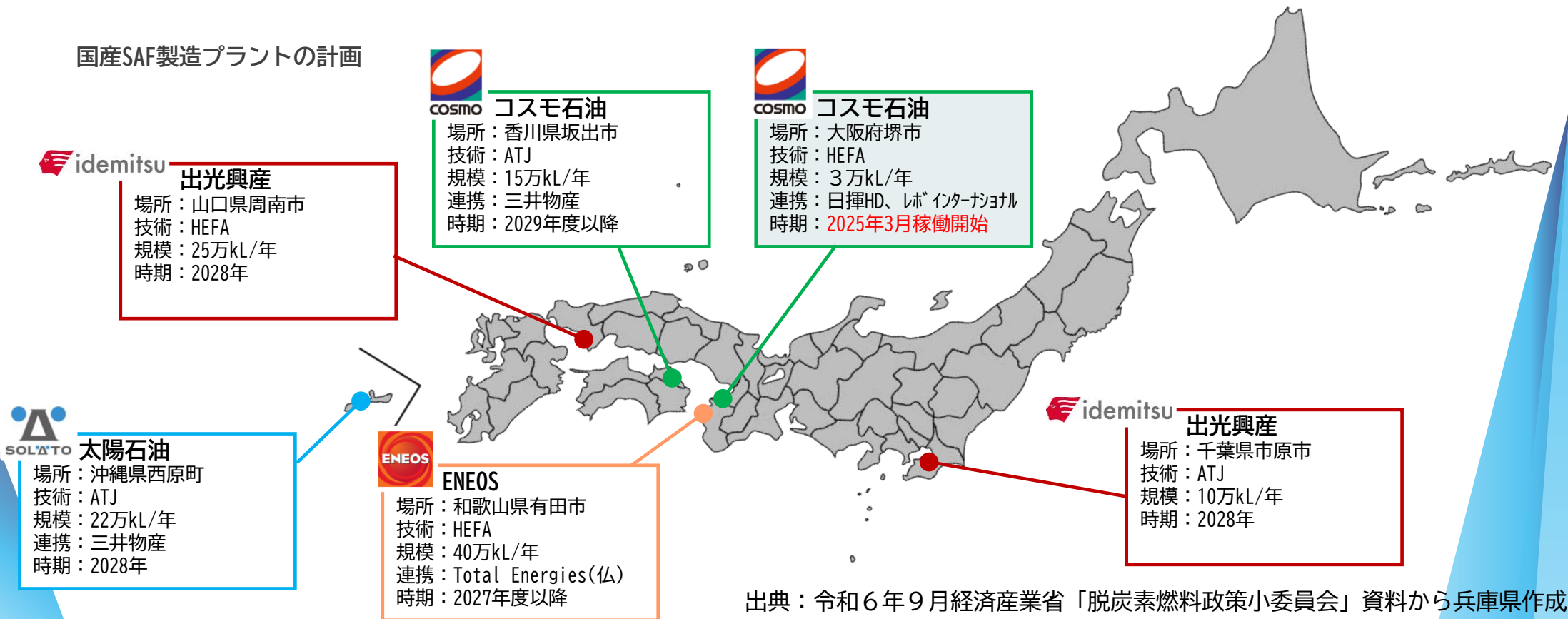
※その他の数値については、当連合会による実態調査等情報収集による総合的判断に基づき推計した。

持続可能な航空燃料（SAF）の供給に向けた取組

～国産SAFの製造拡大に向けた現状と課題～

- 国内の石油元売企業も国産SAFの製造に向けた取組を実施。コスモ石油は、大阪府堺市においてHEFA技術を用いたSAF製造施設を2025年3月に設置。国内初のSAF製造プラントとして稼働を開始。
- 石油元売事業者によるSAF製造プラントに係る最終投資決定（FID）を直前に控えた現在、航空会社と石油元売事業者とのSAF売買に関する交渉が始まったところ。
- 一定程度、売買契約が見えない中では、石油元売事業者はSAF製造プラントに係るFIDを実施することができない。
- 他方、航空会社としても、燃料費の高騰は経営への影響が非常に大きく、国際競争力のある価格の国産SAFが必要不可欠。
- 海外の動向を見ると、①航空会社へのSAF利用のインセンティブ制度も施行されているほか、②SAFの混合義務制度が整備されている等の取組がなされている。

国産SAF製造プラントの計画



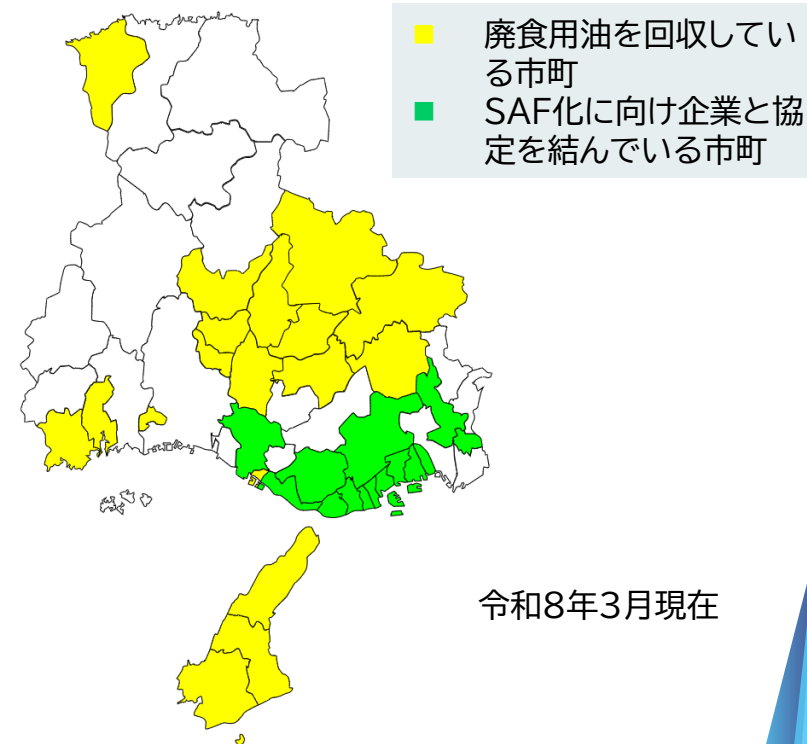
持続可能な航空燃料（SAF）の供給に向けた取組

～県内市町における廃食用油の回収促進～

- 現在、県内24市町が家庭系廃食用油を回収。うち18市町ではバイオディーゼル燃料（BDF）や石けんに再資源化。6市（神戸市、明石市、芦屋市、伊丹市、加古川市及び宝塚市）では、石油製造企業等とSAF化を目的とした連携協定を締結。
- 県では、令和7年10月15日から令和8年3月3日まで、伊丹市内のイオンモール2店舗（伊丹店、伊丹昆陽店）と連携し、廃食用油回収モデル実証事業を実施。（店舗では、実証事業後も継続して回収を実施）
- 今後、実証事業で得られた知見を県内市町に展開し、県内市町への廃食用油回収の取組拡大を予定。

家庭系廃食用油のSAF化に関する連携協定締結市町（R8.3月現在）

市町名	協定締結日	連携先企業名
神戸市	令和6年6月28日	<ul style="list-style-type: none"> ● 日揮ホールディングス(株) ● (株)レポインターナショナル ● NPO法人Blue Earth Project ● 関西エアポート神戸(株)
芦屋市	令和7年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> ● 植田油脂(株) ● ENEOS(株)
宝塚市	令和7年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ● ENEOS(株) ● サントリーホールディングス(株)
伊丹市	令和7年6月24日	<ul style="list-style-type: none"> ● 日揮ホールディングス(株) ● (株)レポインターナショナル ● 合同会社SAFFAIRE SKY ENERGY
加古川市	令和7年8月4日	<ul style="list-style-type: none"> ● 日揮ホールディングス(株) ● (株)レポインターナショナル ● 合同会社SAFFAIRE SKY ENERGY
明石市	令和8年2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ● 日揮ホールディングス(株) ● (株)レポインターナショナル ● 合同会社SAFFAIRE SKY ENERGY



廃食用油回収モデル実証事業キックオフイベント（伊丹市）

5 令和8年度の新規・拡充予算について (資源循環関係)

使用済紙おむつの水平リサイクルに向けて

～環境省の検討状況～

使用済紙おむつの再生利用等の検討の趣旨・内容



- 使用済紙おむつの排出量の増加が見込まれる中、使用済紙おむつの再生利用等の推進は、自治体における焼却処理量の削減等による廃棄物処理の合理化や資源循環の促進に資する。循環経済への移行に当たっても、少子高齢化への対応等の社会課題の解決にも貢献できる資源循環の取組の推進は重要。
- 以上を踏まえ、更なる取組の促進に向け、現状の整理及び今後の方針について検討を実施。

～紙おむつ再生利用等のポイント～

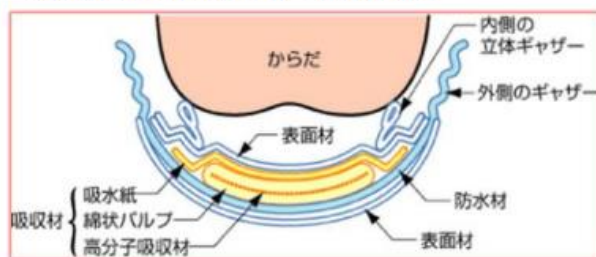
○紙おむつの素材は再生利用等が可能。

⇒パルプ、樹脂、高分子吸収材 (SAP)は、**殺菌処理などをした上で再生利用等可能。**

○紙おむつは高齢化社会により今後排出量が多くなることが推計される。

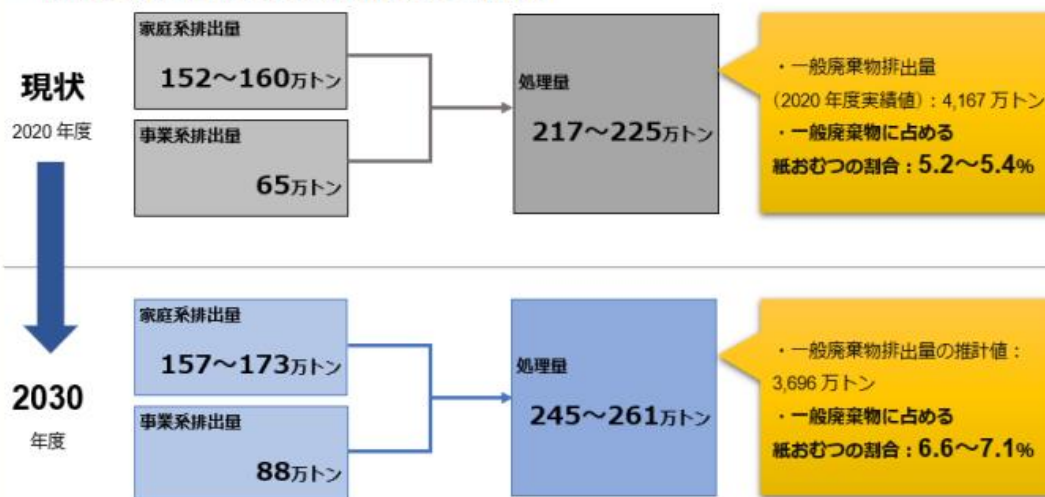
⇒一般廃棄物に占める割合は5.2～5.4%から、**6.6～7.1%程度**となる見込み。

＜紙おむつの組成※パンツ型の例＞



素材	構成比率の例
上質パルプ	52%
樹脂	28%
高分子吸収材	20%

一般廃棄物に占める使用済紙おむつの割合



使用済紙おむつの水平リサイクルに向けて

～令和8年度の兵庫県の取組～

背景

- 2024年1月策定の「兵庫県資源循環推進計画」では、2030年度に向けて1人1日あたりのごみ排出量を、家庭系▲9%、事業系▲12%削減と目標設定。
- 一方、使用済み紙おむつの一般廃棄物に占める割合は、近年の少子高齢化による大人用紙おむつの使用増により、2020年5%→2030年度7%に増加が見込まれる。
- 今後、2027年度を目途に策定予定の「長期広域化・集約化計画」においても、将来的に市町の焼却炉の集約化を図っていく上で、ごみの量の削減が必須。
- 県内企業においても、使用済紙おむつの水平リサイクルに取り組む事例が進行中。

兵庫県資源循環推進計画（廃棄物処理計画）の目標

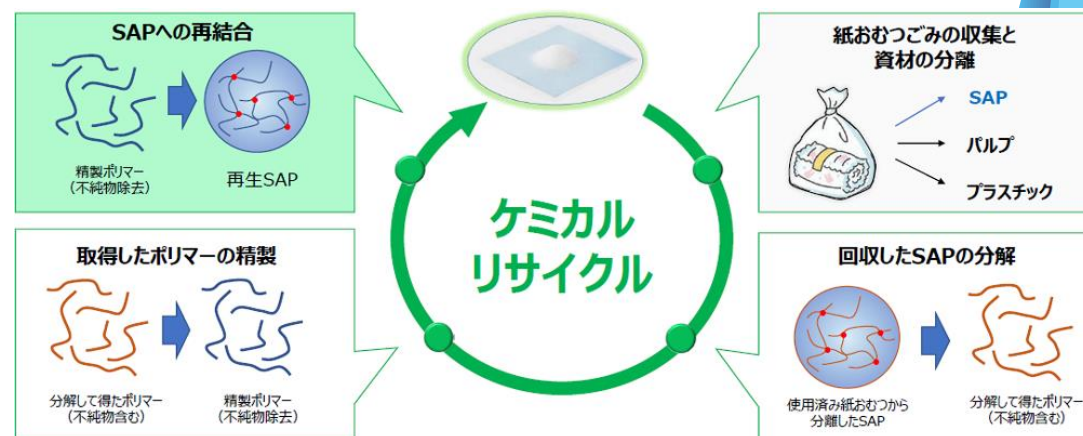
一般廃棄物	実績値	計画目標値	
	令和2年度 (2020年度) 【現状・基準年度】	令和7年度 (2025年度) 【中間目標】	令和12年度 (2030年度) 【最終目標】
目標項目			
1人1日当たりの 家庭系ごみ排出量	507g/人日	477g/人日	459g/人日
最終処分量	206千ト	169千ト <▲18%>	151千ト <▲27%>
指標項目			
排出量	1,815千ト	1,706千ト <▲6%>	1,617千ト <▲11%>
1人1日当たりの 事業系ごみ排出量	274g/人日	▲5% (260g/人日)	▲12% (242g/人日)
再生利用率	15.5%	19%	21%



兵庫県モデルとして紙おむつの水平リサイクルシステム構築が検討できないか

2026年度の検討内容（案）

- (1) システム構築検討会
 - 兵庫県モデルの構築に向けた検討会の開催
- (2) 県内の使用済紙おむつ排出量の調査
 - 県内の使用済紙おむつ排出量の推計
 - モデル地域における意識調査
 - 調査結果を踏まえた課題抽出



住友精化(株)の目指すケミカルリサイクルのイメージ例
(同社HPより引用)

大規模イベントを通じたプラスチックごみ 排出抑制の啓発



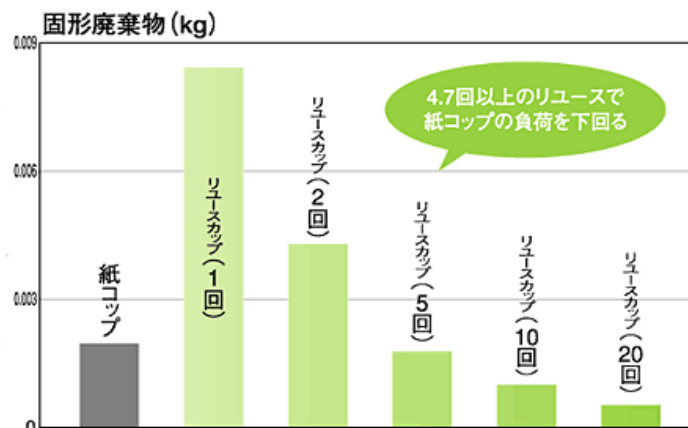
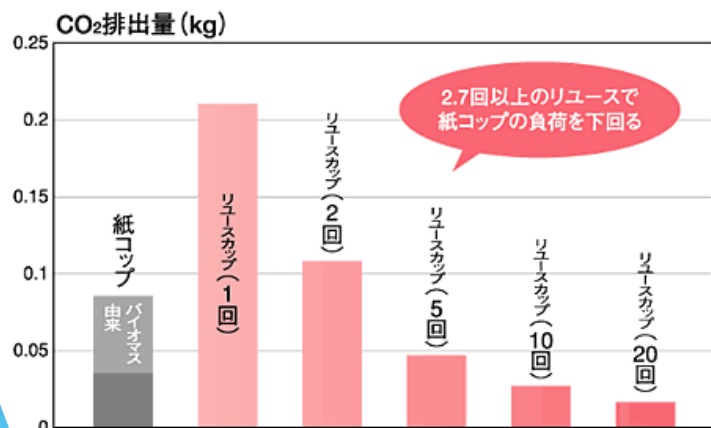
- 近年、野外イベントを中心として、ワンウェイプラスチックを使わないイベント運営が広がりを見せており、令和7年度に実施された大阪・関西万博においても、「EXP02025グリーンビジョン」により、原則としてリユース食器を用いたイベント運営が行われた。
- リユース食器は、繰り返し使用することで、ワンウェイプラスチックよりもCO2排出量、廃棄物発生量ともに少なくなることから、環境負荷の少ないイベント運営に重要な取組となっている。
- 兵庫県においても、県主催イベントにおいて、飲食ブースでのリユース食器の使用、給水スポットの設置によるマイボトル運動の促進、リサイクルに関するブース展示等を通じてワンウェイプラスチックごみを排出しないイベント運営を実践し、県民にプラスチック排出抑制の機運を醸成する。



リユース食器の例

大阪・関西万博に設置された給水スポットの例
(出典：大阪市水道局)

屋外でのイベントの様子



リユース食器と紙コップの環境負荷の比較 (出典：リユース食器ネットワークWebサイト)



イベント終了後のごみ集積場の状況の例

ひょうごプラスチック資源循環コンソーシアムの活性化



- 令和4年度に発足した「ひょうごプラスチック資源循環コンソーシアム」では、観光やスポーツ等の異分野業種や市町、リサイクラーと連携し、プラスチック資源循環を促進。
- コンソーシアムでは、「プラスチックの使用削減などの促進」「水平リサイクル等の促進」「市町が回収する製品プラスチックの効率的な資源循環」「行動変容の促進」の4つのテーマで取組を展開。
- 令和8年度は、リサイクル技術の向上や社会情勢の変動を調査・把握し、コンソーシアム構成員の拡大とともに、市町・コンソーシアム構成員が一堂に会する情報交換会を開催し、横連携を拡大するとともに、県民向けのフォーラムを開催し、プラスチックごみ削減対策について広く周知し、海洋プラスチック汚染に関する意識醸成を図る。

当日のイメージ(案)

	内容
午前	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源循環コンソーシアム報告会 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 各分野における企業・団体の取組紹介 ➢ 分野内での意見交換・連携構築 ● ポスターセッション <ul style="list-style-type: none"> ➢ 参加企業・団体の交流 ➢ 県民への取組のPR
午後	<ul style="list-style-type: none"> ● 県民・事業者向けフォーラム <ul style="list-style-type: none"> ➢ 基調講演 ➢ パネルディスカッション

主な連携分野と連携先の想定

分野	主な連携先
プラスチック使用削減	城崎温泉旅館協同組合、(株)カネカ、(株)ダイセル、(株)ワールドなど
水平リサイクル	(株)エフピコ、遠東石塚グリーンペット(株)、アサヒ飲料(株)、(株)伊藤園、キリンビバレッジ(株)、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、サントリーグループ、(株)JEPLAN、日本山村硝子(株)など
製品プラスチックの効率的な資源循環	小野市、加西市、加東市ほか県内市町
行動変容の促進	日本たばこ産業(株)、(株)ピリカ、(公財)ひょうご環境創造協会、(株)フィッシングマックス、(株)神戸マツダ、(株)帝人フロンティア、県内大学・高等学校など



ポスターセッションのイメージ
(プラスチックスマートシンポジウム)